

幼児心情質の臨床的検診と

プレイセラピー

福山・津之郷保育所

長田波留美

一、心情検診結果

個々の幼児の社会的徴標の事態を明らかにするための手段として齋崎式心情質診断法を用いる。この検診によって、プロフィール十四徴標の短所、問題として表われたもののケース・スタディーをおこないその結果、二〇・八%のものが問題児・行動異常児として検出出来る。

Profile + Case-study

	実数	%
短所として表われたもの	$\frac{18}{72}$	25.0
問題として表われたもの	$\frac{15}{72}$	20.8
Profile + Case-study	$\frac{15}{72}$	20.8

二、原因 心情質の変調状態にある幼児の家庭環境調査

その一、家族の人的構成

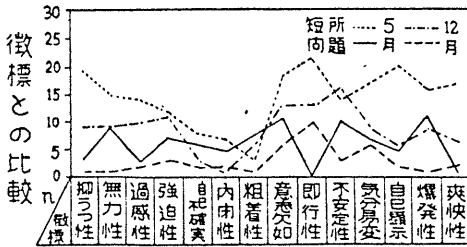
家族数六人 兄弟数三人、兄弟順位では末子第一子中子の順であり、父母の有無、家族解体の状態がみられ父母がないという幼児に最も問題性があることにおいてその原因と考える、祖父母の有無、

祖父母があるという幼児が六十九%で農村の典型的な家族構成としてもこの状態をみることが出来る、職業との関係、農業地であるためにこれが最も多く、その他、兄弟姉妹相互間に生れる問題、関係、家族間の親和、両親の和合、対立、別居、家族の中心は誰か、家族の教育状態関心の度、経済的な生活水準など、個々の幼児の実態を把えて対処の準備性となし、ここでプロフィールの短所問題として表われているものを三つに区分し個々のケースレコードをとり、それに、効果的と思われる場面を工夫し継続的に実施する。

三、適応場面の総括(効果的であった場の例)

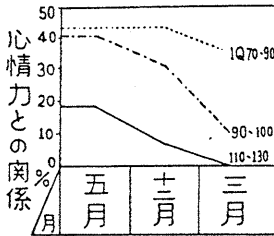
- 1、蓄積的な面において、
 - A、自分より年下の子どもの世話をさせる、自分の周囲の出来事を少しでも話させる、生活発表をさせる。
 - B、少数で静かに絵本をみたり絵を描く、歌をうたう、レコードを聞く。
 - C 害のないことに凝らせ工夫しながら遊ぶことの出来る積木、セツト遊び。
- 2、意志に関する面
 - A、楽器遊びをさせる、静かにレコードを聞く。
 - B、変化を持ったお手伝いをさせる。
 - C、絶えず計画を立て工夫し遊びの種類を多くして覚える紙細工、砂場遊び人形遊びかくれんぼ類など。
- 3、発散的な面において
 - A、個人的なことだけでなく公のことで怒りを発散出来るような場を覚えるお当番にさせる。
 - B、自信が無害に発揮出来るような場を覚える、得意なことをさ

せ感張りたいときには思いきり感張らせる。
 C、動物の飼育をさせる、年下の子どもの世話をさせる。
 四、三月に心情質再検診の結果（指導の効果を吟味するために）
 1、心情質の変調状態にあるものが六、九%に減少しているが、これらは一応指導場面への適応はなざれても心情質指標の問題性は



Profile Case-study

	実数	%
短所として表われたもの	$\frac{11}{72}$	15.2
問題として表われたもの	$\frac{6}{72}$	8.3
Profile + Case-study	$\frac{5}{75}$	6.9



- 1、感張りたいときには思いきり感張らせる。
 - 2、心情力との関係
 - 3、指標の比較
 - 4、意志に関するものにおいて指導の困難性がみられる。
- 意志に関するものにおいて指導の困難性がみられる。、指標の意志に関する面が変調状態にあるもの、これらに対する効果的な適応場面を考案し実際の指導を試みる事がわれわれの活動として残されている。

園児の睡眠について

長野県保育専門学院

栗林 公一

幼児期の睡眠について、その実態を捉え、個人差の究明を計り、正しい睡眠指導の方向とあり方を考えてみよう、実態調査を試みた。

調査は五才児一六七名の結果である。

その結果、五才児の場合標準睡眠時間より三六分短かい。

そのため午睡を各園で実施しているが、最長四、七月、最短一月、平均二、八月という期間的差異と、時間的にも最長二時間三〇分、最短一時間一〇分、平均一時間三六分という結果をみている。ここに午睡時間、午睡期間の設定に対し医学的・心理学的根拠を明らかに